

観光

あわづおんせん
栗津温泉地区（二期）
 （石川県小松市）

- 計画期間 平成29年度～令和元年度
- 面積 32ha
- 交付対象事業費 483百万円
- 市人口 106,544人

ポイント 開湯1300年の歴史を誇る温泉情緒
 「山かげの御殿湯」の創出

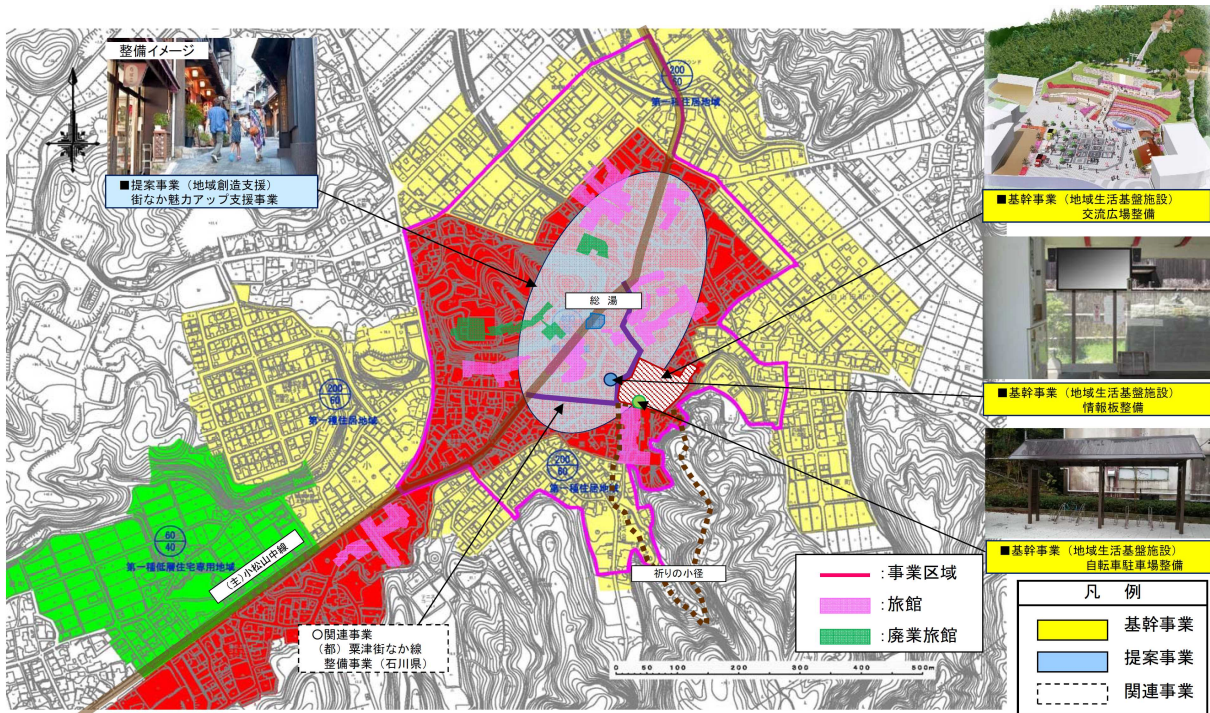
地区概要 『開湯1300年』を迎えることを契機に広場の整備をはじめ、賑わいの創出や景観まちづくりに努め、前回の都市再生整備事業を踏まえ、栗津温泉のさらなる魅力向上のため、当エリアの交流人口の拡大を目指し地域資源の有効活用、地域住民が主体となった持続可能なまちづくりを推進し、温泉街としての賑わい再生を図る。

- 目標**
- ①温泉と歴史・寺社をつなぐにぎわいの創出。
 - ②交流イベントをサポートする広場の活用。
 - ③温泉街の景観の演出と足湯と連携させた回遊拠点づくり。

指標 温泉街のさらなる魅力向上のため、「交流広場整備」や「情報案内板整備」、「街なかの魅力アップ支援」などを実施することにより、温泉観光客数、総湯外来入浴客数、まち歩き者数が増加する相乗効果を目指した。

温泉観光客数	298,166人/年 (H27)	→	238,896人/年 (R1)
総湯外来入浴客数	50,346人/年 (H27)	→	47,879人/年 (R1)
まち歩き者数	913人/10h (H27)	→	1,141人/10h (R1)

事業内容 基幹事業（480百万円） → 広場（A=4,800㎡）、自転車駐車場、情報板
 提案事業（3百万円） → 街なか魅力アップ支援



地区の現況と課題

粟津温泉は、周辺の山代、片山津、山中の各温泉地とともに加賀温泉郷を形成され、ほとんどの旅館が自家堀源泉を有し、里山の山あいに温泉旅館が建ち並ぶ温泉街であり、里山と温泉旅館が一体となった落ち着いた趣きのある風景が魅力を感じさせている。

前回の都市再生整備事業を踏まえ、『開湯 1300 年』を迎えるにあたり、粟津温泉の現状を見てみると、H27.3 の北陸新幹線開業効果により H27 は前年度に比べ、温泉観光客数は、298 千人/年 (H27) とやや増加しているものの、観光客数は 300 千人/年を割り込んでおり、前回整備した総湯の入込客数も 51,794 人/年 (H22) から 50,346 人/年 (H27) と減少傾向にある。

提案事業の特徴

街なか魅力アップ支援事業

温泉街内の観光施設をつなぐまちなかの通りや空間を、浴衣の似合う温泉情緒が感じられるような修景整備を行った。

計画策定プロセス

粟津温泉交流広場活用会議

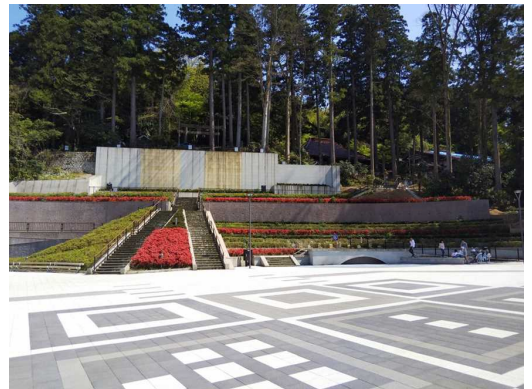
平成 30 年に開湯 1300 年を迎えるに当たり、かつての温泉街の賑わいを取り戻すため、平成 28 年 4 月に旅館共同組合や町内会、粟津のまちづくりを考える会などの各団体で構成された「かみや跡地活用会議（現）粟津温泉交流広場活用会議」を設立した。かみや旅館跡地を中心的な拠点広場とし、広場の整備に合わせた温泉街の修景整備や広場を活用したイベント等について検討を行った。

これまでの経緯

平成 24 年	かみや旅館 廃業
平成 28 年 4 月	活用会議 設立
平成 28 年～29 年	総会ならびにワーキンググループによる会議を実施し、広場整備や賑わい対策等を検討。
平成 29 年 8 月	交流広場整備工事着手
令和元 年 8 月	交流広場完成



▲ 前回の都市再生整備計画事業で整備した総湯



▲ 今回の都市再生整備計画事業で整備した交流広場



▲ 粟津温泉交流広場活用会議の様子